

# シユクル通信

## 2021年3月号

【編集・発行 vol. 77】  
(株)ボイスクリエーションシユクル  
一般社団法人日本声磨き普及協会  
発行責任者 佐藤恵  
令和3年3月1日

## 声の時代到来！ どんどん広がる声の可能性

アメリカ発の音声 SNS「Clubhouse (クラブハウス)」は1月23日に日本でアプリがリリースされました。1月末にユーザー数が10万人を突破、2月4日までに50万人程度に到達と試算され、日本国内で一気に盛り上がりを見せています。音声版 Twitter と呼ばれるクラブハウスの特徴は、①完全招待制というレア感、②すべての room (部屋) 内での会話の記録・録音が禁止されており「今、ここでしか聞けない」という特別感。それらが急激にブームになった理由だと言われています。

音声だけでリラックスしてお喋りを聴いたり参加したり、自然発生的に人と繋がることのできる楽しみもクラブハウスの魅力なのでしょう。

この感覚、なんだか懐かしいです。。。

～知り合い同士で会話をしているところに、誰かが入ってきたり出て行ったり。「ああ、ちょうどよかった」と誰かを紹介したり、紹介されたり。～ 久しく忘れていた感覚、そうです、立食パーティーの感覚ですよ！  
また、会話に参加せず聞いているだけなら、居酒屋さんの隣のテーブルから聞こえてくる雑談を聞いている感覚に似ていますね。

「クラブハウスにはまっちゃって寝不足ですよ」という言葉を耳にしますが、友達との飲食が自粛されている中で、人との出会い・広がり・雑談を楽しむ場がなくなり、今このタイミングで、会話にだれでも参加できるクラブハウスはニューノーマルな時代に必要なツールなのかもしれません。

さて、このクラブハウス現象以前から世界は「声の可能性」をどんどん追及しています。Amazon、Google の音声操作スマートスピーカーや声で操作できる Apple Watch の止まらない進化。また耳だけで情報を得られる「Podcast」「RadioTalk」「Voicy」といったボイスメディアの急速な人気の高まり。(ボイスメディアとは、音声テクノロジーによる情報発信で、声のブログ、YouTube の音声版、と言えます。)

声磨き®を生業にする者にとってこの時代の流れは、追い風であり見逃すことはできません。声作り上げる独特の世界観に魅了される若者が増えてきているそうです。「声だけ」の発信がデジタルネイティブの若年層に新鮮さを持って受け入れられているのは興味深いですね。「音声だけ」だからこそ感じる事が出来る創造性や親近感の深まりが急速な人気の理由です。また、スマートフォンのように目と手を使うことなく「ながら聴き」ができる手軽さも人気の理由となっています。

14年間ラジオパーソナリティーとして番組を制作してきたラジオ屋の一人として、音声メディアの魅力を現場でいつも全身で感じてきました。映像・動画とは違い、リスナーが思い思いに想像を膨らませることができるので、心が自由です。また顔も見えない声だけのやり取りに、たくさんのぬくもりが詰まっています。

声という「音」は、人の大脳の奥深くにある大脳辺縁系に到達し、好き、嫌いといった本能的な感情を引き起こしながら、ホルモンを分泌し、心身に影響を与えているとのこと。

動画隆盛の時代にあって、声による情報が新鮮さを持って若者層に受け入れられているのは、人間の肉声を持っている独特な「温かみ」、声そのものの「心地良さ」を無意識に感じるからでしょう。

アナログな「人の声」は、AI による急激な技術革新の流れの中で、現代人をホッと癒してくれるオアシス的な役割を担えるのではないのでしょうか。さらに、「無意識の力」が働き、人生を創造的なものにしてくれるかもしれません。

声の可能性はまだまだ広がります。「人の声」の価値が高まる社会のために、声磨き普及に邁進いたします！



新年度のコミュニケーション研修はオンラインでも対応いたします。  
お問合せはお気軽に(株)ボイスクリエーションシユクル 電話 048-829-9624 までどうぞ。

声磨き認定講師が続々誕生、ついに関西にも！全国に広がる認定講師の輪

声のチカラで日本を元気に！と（一社）日本普及協会を立ち上げ早4年、コロナ禍で通学講座からオンライン講座にシフトチェンジしたことで、養成講座の受講が全国どこにいても可能になりました。そのおかげで今では東北、信州、東海、山陰、九州の地方から集まっています。リアルでなければ技術を体得できない、という固定概念を思い切って破り、オンラインでも習得できるよう講座内容と認定試験に工夫を重ねた結果です。関西にも3名誕生し、声磨き講座の大阪弁バージョンも登場！コロナが収束したら、今度は日本各地の地域に根付いた声磨き講座を広げていく計画です。声のチカラで日本中を元気にしていく仲間たちの活躍が楽しみです！



森さん女性蔑視発言から見える「女性専用」話し方スクールの存在理由

東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗元会長の女性蔑視発言に端を発し、これまでタブー視されていた日本社会のジェンダーギャップについて誰もが声をあげやすくなったことは、「男女格差後進国」日本にとっては大きな前進ですね。2018年女性活躍推進法が施行され、会社の中では女性達がどんどん昇級していきました。これまで人前で話す業務に携わって来なかった業種の女性も〇〇長に登用されていきました。「どうせ女だから偉くなったんだろ」って思われているんだろうな…という空気の中で話さなければならない女性リーダー達。こうしたプレッシャーから、緊張して声が震えて、甲高い声になってしまう。すると「だから女はすぐに感情的になるから面倒くさい」、とあしらわれる始末。こんなアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）地獄で必死に挑んでいる女性リーダー達の話術スキル向上だけにとどまらない、考え方・心の持ち方もトータルサポートするのが、女性専用話し方スクール・シュクル声磨きサロンの「声美人の学校」です。日本がジェンダーギャップ後進国から抜け出せない間は弊社も女性専用にとこだわり続けることでしょう。



日本のプレゼンテーションリテラシーを高めるために

東京都立王子総合高校のボイス・スピーチトレーニングの授業では、一年間の集大成として、年度末にビブリオバトルを行います。ビブリオバトルとは、「人を通して本を知る 本を通して人を知る」を目指す本の紹介コミュニケーションゲームです。読んでもらいたいオススメ本を5分間で紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い最多票を集めたものを『チャンプ本』とする書評合戦です。



ビブリオバトルのルールは、たった一つ。原稿はNG、レジュメもパワーポイントも利用しない。生の語りで発表することが求められます。これ、日本人の弱いところ。。。(汗)

いざ本番になると、原稿を読んでいる高校生達。沢山のノウハウを教え練習してきたにもかかわらず、原稿がないと喋れない現実。週1回だけの指導の限界。。原稿棒読みの首相答弁が象徴しているように、日本の社会は未だに原稿朗読がまかり通っています。日本のプレゼンテーションリテラシーを高めるには、人前で話す時に原稿を棒読みするのは恥ずかしい事、世界のスタンダードには通用しない、とまず大人が堂々と話す当たり前を示していかなければいけませんね。そして、幼少期のころからパブリックスピーキング教育の必要性を強く感じます。

「声磨き」は日本のこの課題を解決するために、まだまだやるべきことが山積みです。俄然やる気が出てきます！



(株)ボイスクリエーションシュクル <https://vcsucre.com>  
 (一社)日本声磨き普及協会 <https://koemigaki.com>



〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町1-15-1 エスプリ浦和103/201  
 TEL: 048-829-9624 FAX: 048-829-9634 メール: info@vcsucre.com